

## 第238回研究科委員会・第344回教員会議 議事要録

日時：令和4年11月9日（水） 14：15～18：10

場所：後援募金記念棟 会議室1-3

### 議 題

#### ◆研究科委員会◆

冒頭、研究科長からコロナ関連の情報提供があった。11月に入ってから、2つの運動部でクラスターが発生した。一つの運動部では車で移動等により2/3のメンバーが感染した。もう一つの運動部では、6名の陽性者が出ている。全国と同様に学内でも感染者が増えている。

大学院改革関係では、昨日、全学の運営会議が開催された。大学院の募集状況について説明があり、教職大学院は出願者数が定員を超えていること、食農はⅠ期で43名の出願があったことが紹介された。理工はⅡ期の出願が終了し、理工学専攻博士前期課程の一般選抜志願者数は10名、環境放射能学専攻博士前期課程の一般選抜志願者数は1名である。博士後期課程では、理工学専攻の社会人特別選抜の志願者が1名いる。理工学研究科全体では、定員を満たす可能性が高くなった。

大学院教育プログラム連絡調整会議については、議事メモに沿って説明があった。他専攻科目履修時の申請書案やプロジェクト研究予算などが検討された。プロジェクト研究の予算は1件10万円の予定。プロジェクト研究のテーマとしては、理工学専攻から「マイコンとICTを活用したさまざまな課題解決」、環境放射能学専攻からは「地域住民による自主的な空間線量率測定データの整理・統合」を提案している。

大学院全体の管理・運営については意見聴取が求められている。11月15日が締め切りなので、11月14日夕方まで研究科長あてに意見を送ってほしい。資料1-3「新構想大学院のガバナンス（残された課題）」について説明があった。現在は（拡大版）運営会議が開かれ、必要に応じてIER所長が参加している。審議の主体は原則として研究科委員会としつつ、研究科の判断によって専攻会議が担うことができるものとする、研究科規程に「専攻会議」を明記するかどうかは各研究科で判断すること、複数専攻を有する研究科は専攻長を選任すること、選任方法は各専攻で定めること、専攻長については各研究科の内規で定めることなどが紹介された。なお、「研究科委員会規則」第3条で定める審議事項は、研究科委員会での審議が原則であり、一堂に会して／オンラインで会場をつないで、研究科委員会を開催する（\*成立要件：委員の過半数の出席（同規則第5条））ことが紹介され、研究科長からこの方法の実施は難しそうであり、質問に対する大学執行部の回答は不十分であり、工夫が必要との指摘があった。また、代議員会もうまく運用できるかとの付言があり、以上のことに関して意見聴取したいとの発言があった。

報告事項2の「大学院改革により生じる学内組織運営における変更等について」では、学類選出評議員をR6年度から1名とする提案があった。資料2-1の説明があり、学類選出評議員を減らすと学類の運営に支障が出るとの意見が多く、学類から出されたことが紹介された。

#### [審議事項]

##### 1. 研究科長

###### (1) 研究科長候補適任者の選出について

資料1に基づき説明があった。候補適任者を複数名選出し、12月15日までに推薦することになっている。学長からの「研究科長を選考する基準について」の説明と、スケジュール（案）、申合せ（案）の説明があった。申合せ（案）第4条で不在投票を入れた。単記無記名投票による上位者2名を候補適任者とする。12月7日に選挙を実施するので、11月30日～12月6日が不在投票期間となる。

准教授から、同票数の場合はどうするのかとの質問があり、研究科長から人事委員会、準備室では当事者で相談する案となっているとの回答があった。更に毎回選挙の前に確認することでよいかとの確認があり、研究科長からそのとおりであるとの返答があった。審議の結果、スケジュール（案）と申合せ（案）は認められた。

###### (2) 新大学院の3つのポリシー（DP, CP, AP）について

資料2に基づき、説明があった。理工以外は設置審書類のものを使用している。大学のHPで公開するので最終確認したい。内容について意見をいただきたい。教授から、公開する3ポリシーは修士だけなのかとの質問があり、研究科長から公開するのは前期課程のみとの返答があった。教授から、「下表」と記述があるが該当するものはあるのかとの質問があり、研究科長から細かな文案はチェックする、これをベースに作業を進めるとの返答があった。審議の結果、この案で進めることが認められた。

## 2. 教務委員会

### (1) 令和4年度非常勤講師計画について

資料3に基づき説明があった。番号10の「(院)材料システム設計特論II」は取り下げ、番号50の「(院)森林放射能学」は新規追加との説明があり、了承された。

#### [報告事項]

### 1. 教務委員会

#### (1) 令和4年度10月期入学大学院研究課題等一覧について

資料4に基づき、学生の研究課題が報告された。

なお、環境放射能研究所長から、研究科長の選挙にあたり外国人教員の投票配慮について質問があり、研究科長から投票用紙は日英併記で準備しているとの返答があった。

## ◆教員会議◆

#### [審議事項]

### 1. 学類長

#### (1) 学類長候補適格者の選出について(投票)

資料5に基づき、日程・スケジュールの説明があった。また、学長からの「学類長を選考する基準について」の説明があった。教員会議が2/3以上の出席により成立していることを確認した後、学類長から本日の予備選挙では候補適格者5名を選出すること、末位同票は候補適格者に加えること、今後の選出日程について説明があった。とくに質問はなく、予備選挙を実施した。

開票の結果は、得票順に次のとおりとなった。

1. 30票
2. 26票
3. 16票
4. 9票
5. 7票 7票

末位が得票同数のため、候補適格者は6人となった。

### 2. 教務委員会

#### (1) 令和4年度非常勤講師計画について

資料3に基づき、番号40と42(いずれも単発・1回)の日程が決まったとの報告があった。

#### (2) コース配属方法について

資料6に基づき、まずは経緯の説明があった。これまでのコース定員の最大人数は教員数×4であったが、このままでは担当教員の定年退職等により不足する。そこで、コース定員の最大人数を教員数×4~5にしたい。具体的には、教務委員会が提示した初期値を参考に各コースは最大定員を教員数×4~5となるように決定する。1年生向けには11月25日の「共生の科学II」で説明する。

准教授から研究室配属人数も増えるのかとの質問があり、教務委員長からコースは最大定員5、研究室は最大定員6になることと、コース定員より研究室定員を増やすように依頼する、今年の1年生は人数が多いことなどの説明があった。同准教授から、教員数を増やしてほしいとの要望があった。教務委員長

から、今後教員が3名減ると、教員1人当たりの学生定員は5人になるとの説明があった。学類長から、コース定員と研究室定員とは直結しているわけではないとの付言があった。

教授から、エネルギーコースの主担当教員数は1名であり、物質科学コースと一体化する件についてどのように説明するのか質問があった。教務委員長から、説明は今年と同様に行う方針であり、配布する資料には二重丸がついているとの説明があった。

とくに異論はなく、教務委員会からの提案は認められた。今後、教務委員長から分野長宛にメールで依頼が送られる。

### 3. 将来構想検討委員会

#### (1) 共生システム理工学類の入試改革の方向性について

学類長から、資料7に基づき、入試改革のスケジュールや改革案についての説明があった。そして、今回の教員会議で提案した改革の方向性について多くの意見をいただきたいとの要望があった。

次に、学類長から一般選抜前期・後期入試について説明があった。議論の後、学類長から12月までに結論づけたいとの発言があった。

#### [報告事項]

#### 1. 学類長

##### (1) 令和4年12月期における期末手当及び勤勉手当の加算該当者の推薦について

資料がプロジェクタ投影され、教育職(一)5級6名、教育職(一)4級3名の該当者が報告された。

(2) 令和4年12月勤勉手当に係る「勤務成績が特に優秀な職員」及び「勤務成績が優秀な職員」(教育職員)の推薦について

資料がプロジェクタ投影され、特に優秀な職員2名と優秀な職員9名の該当者が報告された。

なお、勤務成績が良好でない職員が2名いることが報告された。

##### (3) 保護者との懇談会の報告について

10月29日に保護者との懇談会が実施されたことが報告された。学類側からの参加者は執行部3名と教務委員長、学生生活委員長、就職支援委員長、支援室2名および後援会だった。詳しくは次回の教員会議において資料で説明する。

午前の部は全体会と院生4名の発表があった。アンケートでは院生発表が好評だった。やってよかったと評価している。

昼は後援会理事との懇談会が開かれ、研究実験棟の見学を行った。いずれも好評だった。

15時からは15分ずつ個別懇談した。5名の申し込みがあり、実際には学生4名の保護者と懇談した。これをきっかけに子供の成績や生活が明らかになり、休学手続きをしたケースがあった。個別懇談前に親と面談し、休学手続きをしたケースもあった。

#### 2. 教務委員会

##### (1) 学生の休学について

プロジェクタ投影で2名の学生の休学が報告された。休学期間は11月1日から3月末日までである。

##### (2) 第76回全学教務協議会について

###### (審議事項)

・令和5年度開講計画の策定にあたって

資料8に基づき、来年度も教室はコロナ対応となることや、メディア授業は申請が必要であることとの説明があった。

・メディア授業申請書について

資料9に基づき、所定の様式で申請する必要があるとの説明があった。一度申請したら、原則としてずっと継続する。

・令和5年度授業日程（案）について

資料10に基づき、R5年度の授業日程案の説明があった。みなし日が3日ある。現時点で問題があれば連絡してほしいとの依頼があった。

・大学院改革に伴う学籍番号について

資料11に基づき説明があった。理工学生の学籍番号は変わらない。

（報告事項）

・令和4年度後期単位互換による特別聴講学生の  
受入れ及び派遣状況について

資料12に基づき、理工学生には該当者がいないとの報告があった。

3. 奨学寄附金の受入について

奨学寄附金4件、共同研究1件、学術指導1件の受け入れがあったことが報告された。

[その他]

1. その他

学類長から、資料13に基づき、学生向けウェビナー学術論文（入門編）が11月16日（水）に開催されるとの紹介があった。

学生生活委員長から、単位取得不振者との2年生の個人面談結果が一部届いていないとの報告があり、前者は11月18日、後者は11月11日が締め切りであるとのリマインドがあった。遅れる場合は委員長にメールしてほしいとの依頼があった。

◆教育研究評議会◆

○第389回（10月18日開催）報告

【報告事項】

（1）大学院の改革について

学類長から研究科委員会冒頭に説明済みなので省略。

（2）研究科長候補適任者の推薦依頼について

学類長から研究科委員会冒頭に説明済みなので省略。

（3）経営協議会学外委員について

資料3に基づき、1名就任し、任期は前任者の残任期間であるとの報告があった。

（4）プロジェクト研究所について

資料4-3に基づき、理工からは2つの新規プロジェクト研究所が認められたことと、全学では2つの研究所が廃止となったことが報告された。

◆運営会議◆（長橋学類長）

○第180回（11月8日開催）報告

## 【報告事項】

### (1) 大学院の改革について

学類長から研究科委員会冒頭に説明済みなので省略。

### (2) 大学院改革により生じる学内組織運営における変更等について

学類長から研究科委員会冒頭に説明済みなので省略。

### (3) 福島大学ネットワンシステムズ奨学金基金（給付型奨学金）の設置について

資料3に基づき、金額と期間は年500万円×4年間であり、院生向け奨学金とする方向であるとの報告があった。初年度を除き3年次後期に公募・審査がある。現在、設置準備が進行中である。

### (4) その他

#### ①早期退職希望者の募集について

詳しくは資料4-1を参照してほしいとのアナウンスがあった。

#### ②特定年俸制への移行者の募集について

資料5に基づき、11月1日から募集開始しているとの周知依頼があった。

#### ③年末調整の電子化について

資料6に基づき、11月14～22日が申請期間であるとの報告があった。

#### ④令和4年度福島大学アンガーマネジメント研修の開催について

資料7に基づき、12月21日15:00～16:30にL2教室で開催されるとのアナウンスがあった。

次の2件のアナウンスが学類長からあった。

\*学類若手教員との懇談会を開催したい。12月14日のDNK監督者説明会後に理工大会議室で行う。去年と同じメンバーにメールする。

\*クリーンキャンパス時に理工棟非常口でたばこの吸い殻があることを発見した。注意するように指導してほしい。